

送別会挨拶・スピーチ

米山記念奨学生 李 寧

2017年3月15日

皆様、こんばんは。

本日、例会でこのような送別会を開いていただき、誠にありがとうございます。

奨学生を卒業するまで、あと残りわずかです。1年間大変お世話になりました。米山記念奨学生になってとても良かったです。

最初、米山記念奨学金と出会った時、他の奨学金のない「カウンセラー制度」というものに魅力を感じ、「奨学金だけをもらえるのではなく、勉強上や生活上、アドバイスを受けることができるだろうし、困ったらきっと話を聞いてくれるだろう」という単純な思いで応募しました。

しかし、奨学生になってから、思っていたよりも、遥かに多くの有意義な経験を得ることができました。例えば、世話クラブの例会や地区大会の参加、ローターアクターの一員としての地域活動、奨学生同士の交流や体験会等々。このような集まりのなか、たくさんの人と出会い、たくさんつながりが生まれました。企業や社会の実際を知ることができると同時に、いろんな物事に目を向けて、新しい見方を得ることもできました。

そして、温かい大家族のような世話クラブの皆様と出会って、私は強く明るく前向きな気持ちになれたことを実感していました。

奨学生になる前に、福島での新しい留學生活に少しずつ慣れましたが、これから日本での生活や就職に対して、常に緊張や不安を抱えていました。なので、物事に取り組む時に、熱情がありますが、自信がありません。しかし、今年に入ってからある日、周りの人々から、「去年よりずいぶん変わってきたね！いつも笑顔で、明るいしね、」と言ってくれました。皆様の前でも、私の言葉はそれほど多くなかったと思いますが、いつもニコニコしているような感じではないでしょうか。このような変化をもたらしたのは、皆様のお互いの親善な関係と、「誰かを助けてあげよう」という気持ちを込めた言葉や行動をよく見たり聞いたりしているうちに、知らず知らずに影響されることが多かったと思います。そして、「今、やりたいことを、真面目にやればいいんだ」と心がけるようになり、自然と日々物事を楽しく取り組むようになりました。

いま、奨学生生活を振り返ると、皆様との出会うことによって、私の心からの疑問をようやく解けたことは何よりも大きな助けとなっています。

実は、4年前、また中国で仕事をしていた私は、「なぜいまの仕事にやりがいを感じないのか、楽しくないのか」という疑問を持ち始めました。それを解けるためのひとつの糸口として、日本人の職業観を学び、日本に留学することを決意したのです。そんななか、非常に幸いですが、米山記念奨学生になって、恵まれた環境で育てられた1年間、ロータリーの精神を徐々に理解し、ロータリーアンの皆様一人ひとりが持っている職業観を学ぶことができました。そこから、初めて「働くことの意味」と「職業奉仕」に心から共感を得ることができました。このように、いつの間にか、最初日本に来た時に、私が持っていた疑問に対する答えははっきりと分かっているのです。皆様の考え方や言葉遣いや行動から、心の豊かさを与えられ、もっといろんなことをチャレンジし、もっと成長したいと思うようになったのです。

なかでも、皆様から、たくさんの温かい言葉やアドバイスをいただくことができました。例え



ば、「仕事って今できないことは仕事だよ」、「誰のために働くということを明確にすれば、仕事は楽しいですよ」、「若いうちに、真面目にやればいいんだよ」、「他人を助ける勇気が欠かせないよ」等々。このような言葉はいま、よく目を通すノートに書かれています。困ったときや迷ったとき、原動力のように、励ましてくれて、私の心の成長に繋がるのです。

皆様からのお世話に対して、本当に言葉ではすら、言い表せないほどの感謝があります。実は、日本人の学生さえ、経済的な困難の理由で大学をやむを得ずあきらめたことや、返済が必要な奨学金を借りながら、学業に精いっぱい頑張っている学生がたくさんいます。そして、私より優れている留学生はこのような夢も見なかったロータリーによる支援を恵まれなかったことも決して少なくありません。こういうことを考えて、私は奨学生になって極めて幸運だと思っています。

したがって、これからも、一人でも多くの留学生の生活を支え、彼らの夢の実現に一步でも近づけるように、ぜひ皆様からの米山記念奨学金への寄付を引き続きお願い致します。

続いて、私の抱負についてです。

まず、「誰でも信頼できる人、必要とされる人になりたい」ことです。これから、東京都にある大手量販店に就職することになります。家電量販店であり、小売業に分類されていますが、日々人と接することから、サービス業により近いかなと思います。職場を通して、日本ならではの「思いやり的心」を養うことと同時に、「専門知識」を身につけてスペシャリストになることを目指します。※編集部注 会社名は伏字とさせていただきます。

将来の目標ですが、大学で学んだ専門知識を活かして、起業や独立したいとも考えていますが、まず、人と人の出会いを大事にし、真面目にやっていきたいと思っています。そして、皆様のように「今の仕事は忙しいけれど、楽しいです、やりがいがあります、今の仕事が好きです」と堂々とと言えるようにしたいです。さらに、いつか、皆様のように、ロータリーアンの一員という一つの共通点で集まって、職業の専門性を生かして、いろんな形で社会奉仕活動を実践できるようにしたいです。

実は、奨学生になった今現在、悔しいと感じたことがあります。それは、お世話になった皆様一人ひとりの名前が呼べないこと、そして、交流できたのが、皆様の中の一部しかなかったことです。実は、例会ごとに皆様の席が移動になったり、例会に私が早く来て、お手伝いをしたりすることで、皆様との交流を深め、いろんな指導を受ける絶好な機会であったはずですが、なかなか思ったよりうまくいかなかったと痛感しました。勉強や就活などといった自分のことを最優先で考えてしまった結果、例会や例会以外でも、積極的に皆様と交流したとは言えないと思います。なので、本当に申し訳ない気持ちがいっぱいです。

けれども、奨学生になってできなかったことはこれからできないわけではありません。福島に離れて仕事をして、これからも、優しく心も繊細な（カウンセラー）今野父親と世話クラブの皆様と、いろんな形で、今後ずっと交流をし続けたいと思います。

今、福島に離れる日に近づいてきて、とても複雑な気持ちがあります。福島、私のもう一つの故郷とも言えます。福島で初めて自分に属するとも言える「共同体」を築って以来、福島との絆が段々深くなってきて、福島に離れたくない思いは、ずっと心のなかに持っているのです。福島で育てられて、将来なんとか福島のために、少しでも力を入れたいと考えています。

大学3年編入留学生としての私は、2年間の福島での生活のなか、福島のことに日々関心を持ちつつ、いろんなことを知ったり、感じたりして、そして福島に関することを少しずつ考えるように



なりました。原発事故後の復興、今現在の避難指示の解除、これからの街づくりや避難者の帰還など、さまざまな課題が表面化されています。しかし一方、まだまだ知られていない「福島の実情」はたくさんあるのではないかと思います。その目に見えにくい「福島の実情」をどのように知ってもらおうのかを考えたときに、「情報発信」が欠かせないと思います。しかし、何をどのような形で、どう伝わっていくのか、そのやり方はこれからの仕事の中でも、地域活動の中でも、もっと深く考えていきたいと思っています。

なので、とにかく、いろんなことをチャレンジしていきたいです。いつか、積み重ねてきた経験を自分のものにした後、職業奉仕を实践できるというような形にしたいのです。

これからの東京での新生活に対して、新しい人間関係や、ネットワークを作るには、もちろん不安を感じますが、どんなことにあっても、人を磨き、心の成長できる一つ一つの試練を見なし、なんとか乗り越えようと思っています。しかも、これまで奨学生になって得られたことを様々な場面で活かせると思っているのです。

最後になりますが、私をよい方向に導いてくれたのは、家族の絆と、出会った方々からの指導と支援などにほかなりません。このこと、いつまでも忘れずに、なんでも謙虚にやっていきたいと思っています。

それでは、本日、米山記念奨学生として最後のスピーチはここでお終わります。

貴重な時間を頂き、本当にありがとうございました。

そして、皆様と一同、来月に新しく入ってくる今年度の奨学生と出会うのを楽しみにしています。

